

八千代町

議会だより

No.200 記念号



特集 議会だより記念号特集 議員14人に聞きました



町議会トップページ
はこちら

TOPICS

八千代町議会のあゆみ
歴代議長・副議長

議会だより

No.200

12月定例会

■発行／八千代町議会

■編集／議会だより編集委員会

議長に 水垣 正弘 氏、副議長に 谷中 理矩 氏が就任

令和7年第4回定例会は、12月4日から12日までの9日間の日程で開催されました。この定例会では、議長、副議長選挙や常任委員会委員の所属変更などが行われたほか、町執行部から補正予算をはじめ、条例改正など9議案が提案され、審議の結果、全ての議案を原案のとおり可決しました。一般質問は12月11日と12日に行われ、10人の議員が登壇し、町の方針をたどりました。

議長・副議長 就任のご挨拶



副議長
谷中 理矩

ともに、その使命と職責の重さを痛感し、身を引き締まる思いでおります。

現在、本町は人口減少や少子高齢化の進行に加え、地域経済の活性化、防災・減災対策のさらなる充実など、将来を見据えた多くの課題に直面しております。また、町民ニーズの多様化や行政サービスの持続性確保など、議会として果たすべき役割は一層重要性を増しております。こうした現状を的確に捉え、町民の皆様の声を丁寧にくみ取りながら、課題解決に向けた建設的な議論を重ねていくことが必要であると考えております。今後、執行部との緊密な連携を図りつつ、公正で開かれた議会運営を徹底し、町民に信頼される議会を目指してまいります。八千代町の未来を見据え、誰もが安心して暮らせる持続可能なまちづくりの実現に向け、全力で取り組んでまいります。今後とも、町議会に対する町民の皆さまのお力添えをお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。



議長
水垣 正弘

町民の皆さまには、町議会に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私たちは、このたび、議員各位のご推挙により、第29代八千代町議会議長並びに副議長に就任いたしました。伝統ある八千代町議会の栄えある役職に就任させていただいたことは大変光栄であるとともに、身の引き締まる思い

可決した議案内容

● 報告

◇損害賠償の額の決定及び和解の専決処分事項の報告

地方自治法第180条第1項の規定により、町長が専決処分することのできる事項と指定された100万円以下の金額の損害賠償の額の決定及び和解についての専決処分を報告するものです。

● 人事

◇公平委員会委員の選任同意

現委員が令和7年12月31日をもって任期満了となるため、左記の方を再任することに同意しました。

宮本幸子さん(天王木番田)

● 条例

◇八千代町人権尊重のまちづくり条例

人権に関する課題の解決に向けた取組の一環として、お互いの人権を尊重し、多様性を認め合う社会の実現を目指し、新たに人権条例を制定するものです。

◇八千代町火入れに関する条例の一部を改正する条例

「異常乾燥注意報」を「乾燥注意報」に改めるほか、西南地方広域市町村圏事務組合消防本部の火災予防条例において、林野火災に関する注意報又は警報が位置づけられたため、本条例においても整合性を図るものです。

● 予算

◇一般会計補正予算(第4号)

歳入歳出をそれぞれ7億7656万6千円増額し、予算総額を124億9000万3千円とするものです。

◇国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出をそれぞれ110万円増額し、予算総額を29億6471万4千円とするものです。

◇後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出をそれぞれ308万円増額し、予算総額を3億509万8千円とするものです。

◇介護保険特別会計補正予算
(第2号)

介護サービス事業勘定において、歳入歳出をそれぞれ40万円増額し、予算総額を545万円とするものです。

◇八千代中央土地区画整理事業特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出をそれぞれ945万円増額し、予算総額を1億5999万円とするものです。

●その他

◇八千代町第6次総合計画基本構想の改定について

基本構想における「将来人口フレーム」及び「土地利用構想」を改定するため、八千代町議会の議決に付すべき事件を定める条例第2条の規定により、議会の議決を求めます。



令和7年12月(第4回)定例会 議案 審議結果

賛否の分かれた議案

○ 賛成 × 反対 欠 欠席 一議長は採決に加わらない。

議案名	赤荻 妙子	赤塚 千夏	榎本 哲朗	吉田 安夫	谷中 理矩	安田 忠司	増田 光利	大里 岳史	上野 政男	生井 和巳	大久保 武	水垣 正弘	宮本 直志	大久保敏夫	審議結果
令和7年度国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
令和7年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決

議会の構成

12月定例会において、常任委員会委員の所属変更や議会運営委員会委員の辞任があったため、各委員会の構成が変更になりました。
※は、所属等が変更になった委員です。

総務常任委員会

委員長 大里 岳史
副委員長 榎本 哲朗
委員 赤塚 千夏
宮本 直志

教育民生常任委員会

委員長 大久保 敏夫
副委員長 赤荻 妙子※
委員 安田 忠司※
大久保 武
水垣 正弘※

産業建設常任委員会

委員長 生井 和巳
副委員長 吉田 安夫
委員 谷中 理矩※
上野 政男※

議会運営委員会

委員長 宮本 直志
副委員長 大久保 武
委員 大里 岳史
上野 政男※
生井 和巳
大久保 敏夫

委員会紹介

議会運営委員会

ってどんな委員会？

議会運営委員会は、議会をスムーズに運営するための話し合いを行う委員会です。
定例会・臨時会の日程や本会議の進行手順など、議会運営の全般について協議や意見調整を行っています。
八千代町議会では、議会運営委員会委員の定数は6人とされており、議会運営委員会には委員のほか、議長が出席することになっています。

インフルエンザ・コロナワクチン接種について



はら 画ち 動こ



なまい かずみ 議員 生井 和巳

新型コロナウイルスは、令和5年5月8日より5類感染症に移行され、特例的な財政支援は終了となりました。当町では、インフルエンザワクチンは2000円の助成金、コロナウイルスワクチンは5000円の助成金がありますが、両方接種となれば1万円を超える自己負担となり、高額な負担となります。少子高齢化対策としても、無償化が必要であると思います。

また、昨年度と今年度のインフルエンザ、コロナウイルスワクチンの接種人数の比較について伺います。

保健福祉部長 ワクチン接種の助成金額につきまして、茨城県内ではインフルエンザ接種費用は29市町村が

2000円以下の助成となっています。新型コロナウイルス接種費用は34市町村が5000円以下の助成となっています。なお、筑西保健所管内におきましては、インフルエンザ2000円、新型コロナウイルス5000円の助成で、同一の金額となっています。

予防接種につきましては、感染症の予防や感染拡大防止に大きな意義があるものと考えますので、様々な状況を勘案しながら、今後も国や近隣自治体の情報を収集し、費用負担につきまして検討をしていきたいと考えています。

また、当町のインフルエンザおよび新型コロナウイルスの予防接種実施者数ですが、令和6年度の実績は、インフルエンザが3643人、実施率は53.8%。新型コロナウイルスが1133人、実施率16.6%です。なお、令和7年10月末現在の予防接種実施者数については、インフルエンザが1487人、前年の同月比

木の伐採等による安全対策について



はら 画ち 動こ



あかお たみ 議員 赤荻 妙子

木が倒れてきたら家が潰れてしまう危険性があるため、夜も眠れないとか、通学路の草が伸びて、見通しが悪くなり、登下校が心配という声があります。

今後の計画的な管理体制の

380人の増、一方新型コロナウイルスは10月末で294人、前年同月比102人の減となっています。

町長 予防接種に係る自己負担が大きいです。各自治体の負担も増しているという現状から、国や県の支援体制強化を強く求めるとともに、様々な状況を勘案し、今後も国や近隣自治体の情報収集を行い、地元医師会の意見を参考にしながら検討していきたいと思えます。

構築や検討を伺います。

町民くらしの部長 木の伐採による安全対策については、情報提供があった場合、職員が現状の確認をし、八千代町あき地等にかかる雑草等の除去に関する条例に基づき、土地所有者に現状の写真を添付の上、通知文を送付し、土地の適正管理をお願いしています。

通学路の安全確保に対する取り組みにつきましては、町通学路安全プログラムに基づき実施しております。通学路を含めた道路の管理につきましては、職員が定期的にパトロールを実施しています。公有地であれば、町や県等が伐採の対策を実施しています。

町長 草木の繁茂、越境につきましましては、町民の生活環境の保全のため、所有者に現状を説明の上、確認していただき、粘り強く適正管理を促していきます。管理不全な土地が増えないよう、広報活動あるいは地元説明会などを通

して、啓発活動をやりたいと思えます。

◇ごみ袋助成による生活支援について
ごみ袋は、住民一人当たり、現在何枚配布されていますか。町民に寄り添う支援として、ごみ袋助成の前向きな検討をお願いします。

町民くらしの部長 ごみ袋の無料配布枚数は世帯人数別に、1人30枚、2人40枚、3人60枚、4人80枚、5人100枚、6人以上を120枚とし、一般廃棄物排出量を基に算出していますが、不足した場合は追加販売で対応しています。

現在ごみ行政に対し、下妻地方広域事務組合管内の構成市町において、ごみ袋の統一を含め、そのあり方を協議しているところです。

町長 ごみ処理の問題については、しっかりと考えていきたいと思えます。
今後、下妻広域管内の話し合いを踏まえ、ごみを出す際においてのより良い考え方を示せると思っています。

議員定数調査特別委員会について



はら
動こ



議員 宮本 直志

令和5年の9月議会において、議員定数調査特別委員会が設置されました。

現在、国においても衆議院議員の定数削減について、議論されていますが、八千代町においても、去る11月10日に第2回八千代町議会議員定数調査特別委員会が開催され、議員定数についての議論が行われました。今後の人口減少や少子化を見据え、地域の実情に合った数に削減すべきという意見や、住民意見を反映させるためには、定数削減を行うべきではないと各議員から様々な意見が出ました。

議論が尽くされた中で、現在の議員定数14名について、定数削減、現状維持について採決を取った結果、賛成多数により本町の議員定数は、2名削減が適正であると決定し、今回の委員長報告になり

ました。また、町民の意見を集約するために、住民アンケートも実施し、8割を超える方々が定数削減に賛成の回答でした。大きな事業が控えている中で、議会と行政は両輪となっており、施策を進めていかなければなりません。この件について、町長の意見を伺いたいと思います。

町長 議員定数削減につき

ましては、町の人口推移から今後の人口減少や少子化を見据え、削減すべきという意見あるいは行財政改革の一環として経費削減のために定数を削減すべきという視点がある一方で、町民の皆様の声を広く町政に反映させる、議会が持つチェック機能を維持するという重要な視点もありません。私としては、議員定数調査特別委員会における議員の皆様への真摯な議論決定を尊重します。今回の定数削減に対する委員会のまとまりも、町民の方々の意見を聞いていけばその方向であると考えています。

公共施設等個別施設計画について



はら
動こ



議員 榎本 哲朗

町は公共施設等個別施設計画を策定しており、必要に応じて施設の統合、複合化、廃止の検討を行うとされていますが、計画の詳細について伺います。

また、計画の期間や更新費

用はどの程度か伺います。

近年、バリアフリー法に基づき、高齢者や障害者の方々が移動や使用しやすいよう、整備されています。公共施設等個別施設計画での新設や統合、複合化の建築物のバリアフリーをどのくらいの目標値に設定されるのか伺います。

総務部副部長 本計画は、公共施設の維持管理や更新にかかる全体的な方針を掲げ、それをもとに各施設の今後の維持管理等の考え方を取りまとめた内容になっています。

方針の1点目は、従来の改築を中心とした老朽化対策から長寿命化を念頭に置いた改修へ転換し、コストの抑制と平準化を目指していくとともに、目標耐用年数80年を目指します。2点目は、これまで修繕を行う際は、不具合が発生してから修繕を行う事後保全で対応していましたが、予防保全へ転換することで、安全な施設の維持と修繕費用の抑制、平準化を目指します。

3点目は、人口の減少や年齢

構造の変化に対応すべく、施設の統合や複合化、または廃止の検討を行うというものです。

計画期間は、令和7年度から令和16年度までの10年間で、更新費用は、令和7年度から令和16年度までの40年間で、建て替えが必要な6つの施設の更新費用の試算をすると、42億1000万円弱という結果になりました。本計画における新設や統合、複合化の建築物のバリアフリーの目標値にかかる記載はありませんが、今後新たな複合文化施設等の整備を進めていくにあたり、法を順守した整備を行う、バリアフリー100%を目指したいと考えています。

町長 公共施設は、魅力あるまちづくり、活力のあるまちづくりを進めていく上で、重要な拠点となります。

今後も町民の皆様の利便性の向上を図りながら、維持更新を進め、世代間の公平性等も考えながら、効率的で、皆様が使いやすい、そして財政負担が抑えられる施設整備、更新等を進めていきたいと思っています。

地域防災計画の原子力災害対策について



はら 動画



議員 増田 光利

所の指定避難所で6205人。そのほか車中避難を想定した17ヶ所の指定避難場所と8276人を想定しています。

東海第二原発の再稼働に対する当町の方向性について、町長の所見を伺います。

東海第二原発の重大事故を想定した広域避難計画において、水戸市を受け入れ対象自治体として指定されており、受け入れ人数は7000人としていますが、その後、協定に変更はないのか伺います。また、広域避難の受け入れ人数に対する施設収容力、人的要員の確保は出来ているのか伺います。

総務部長 協定書の変更は行っていませんが、広域避難における避難実施要領について、令和7年9月に、水戸市と協議を行い、実効性のある広域避難体制の構築を確認している状況です。

水戸市からの広域避難者の受け入れ可能人数を町内12ヶ



議員 赤塚 千夏

学校統廃合について



はら 動画

廃校後の校舎や体育館を避難所として活用する場合の必要な改修と維持管理費の見積もりを伺います。

教育部長 避難所として求められる改修は、トイレの洋式

化や老朽化した屋根、外壁等の改修などが想定されます。維持管理費につきましては、残す建物とそうでない建物をしっかりと見極め、維持管理費を最小化する方法を検討していきたいと考えています。

学校の統廃合を令和20年度まで先送りし、東中を利用した場合、特別教室を利用すれば新校舎建設は不要ではないかと考えます。

総務部長 町内の指定避難所は、中央公民館と総合体育館、農村環境改善センター、勤労者体育センター、町内小中学校7校と八千代高校の12ヶ所です。

指定避難場所は、小中学校および八千代高校のグラウンド、栗野運動公園、貝谷運動公園、東路田運動公園、町民公園、中結城地区公園と中結城北部地区運動広場、下結城地区公園、川西地区運動広場、クリーンパークきぬの17ヶ所を指定しています。

つ、国民健康保険制度の財源の安定性を確保する観点から、各市町村の状況に応じた運用を求めるとい趣旨の事務連絡を全国の自治体に発信しています。これに関して、本町の対応を伺います。

町民くらしの部長 当町では、事務連絡の趣旨を踏まえ、特別療養費の支給除外対象に該当する世帯に対し、町へ届出をしたうえで、医療機関窓口で10割負担ではなく、通常の割合で受診できるよう対応しています。

生活保護受給要件を満たしている人のうち、実際に受給している人は約2割と推定されています。このように制度利用に対して、消極的になる原因の一つである偏見や差別意識の解消に努めるべきであると考えます。

生活困窮者支援について 厚生省は国保税滞納世帯に対する適切な対応を図り

保健福祉部長 生活保護の申請は、国民の権利であるため、ためらわずに相談いただきました旨の周知を図り、町ホームページにおいても、茨城県の生活保護のしおりにすぐに繋がる体制をとっています。

八千代町の総合計画について



はら
画ち
動こ



よしだ やすお 議員
吉田 安夫

下水道整備は、第6次総合計画後期計画においてどのよう位置づけられているのか。いつの時点から、公共下水道を浄化槽に切り替えることを決めたのか伺います。

また、それは公平公正な行政運営であると考えているのか伺います。

町長 茨城県では人口減少等を考慮した未整備地区の整備手法を見直すこと、汚水処理施設の持続可能な事業運営を図るため、過年度より検討を行っている広域化計画をさらに進め、既存処理施設の統廃合を計画的に反映することとしました。これに基づいて令和4年度に八千代町生活排水ベストプランを見直したのが転換点です。人口減少が進む中で、施設規模が過剰にならないよう、将来人口家屋数

を適切に設定し、計画区域面積を見直して、経済比較分析を行いました。当町では、汚水処理を公共下水道、集落排水、合併浄化槽の3つの手法で進め、地域に合わせて処理体制が選ばれてきました。

第6次総合計画後期計画の中では、見直しも含め、町民の皆様の声を聞きながら、スピード感を持って進めていくと位置付けています。

全域下水道と浄化槽は全く違うインフラ整備です。緊急性や金額の問題でないと考えます。

全域下水道について、第6次総合計画後期計画に明記していただくことを要望します。

町長 公共下水道を全域に位置付けるのは可能かもしれませんが、まずは地域の汚水処理対策を施すには、3つの方法で進めることが最適であると考えています。

第6次総合計画後期計画を見直している最中ですが、町

統合後の学校跡地について



はら
画ち
動こ



おおさき たけし 議員
大里 岳史

近隣市町村において、統合後の学校跡地利用が具体的に決まっていないという問題が挙がっています。当町にも当てはまると考えます。学校の跡地をどう活用していくのか伺います。

教育長 学校の跡地活用につきましては、地域のニーズや建物の状態、立地条件、さらには維持管理費、それから解体費等を総合的に勘案して、公共利用や民間活用など多角的に可能性を検討していきたいと考えています。

駐在所跡地の子育てサロンも東中が空くまで待てなかったのかという意見や、中央公民館を立て替えて複合施設にするのであれば、東中を活用すべきではないか等、様々な意見があります。

町長の見解を伺います。

町長 統廃合に合わせた東中の使い方については、多くの町民の意見を聞き、それらをまとめて方向性を決めていくことが私の仕事になると考えます。

現在、憩遊館が5億円でリニューアル中です。学校統合による新校舎の建設や中央公民館を建て替え、さらには旧中山邸の整備も検討されてい

ます。その予算はどこにあるのでしょうか。なるべく借金は残さないようにした方がいいと思います。町長が言う選択と集中はどこを指しているのか伺います。

町長 財源については、これまでの取り組みにより、ある程度基金が出来てきました。また、起債を活用しますが、これは利益を受ける人たちの公平性を保つという意味もあります。選択と集中については、限られた財源の中で最優先すべきものをやっていくという意味です。

統合後の小中学校を利活用したいという民間企業がある場合、売却や賃貸は想定しているのか伺います。

町長 売却や賃貸については、八千代町で能力を発揮したい、企業として功績を残したいというのであれば、話し合い、検討したいと思います。

八千代町が損をして、大事な財産を引き渡す、あるいはお貸しするというのは出来な

有害鳥獣対策の強化と平地林（里山）の保全・活用について



はら
動画
こちら



なかやま 理矩 議員

かつては捕獲したアライグマのみを処分対応していたと思いますが、現在はハクビシンの処分も請け負うようになったと聞いています。直近の被害や捕獲状況について伺います。

産業建設部長 当町におけるアライグマとハクビシンによる農作物の被害額は、令和5年度で92万9000円になります。アライグマなどによる被害が発生した場合は、町の実施要領に基づき、箱罠を活用し捕獲を実施しています。今年度から国の交付金を活用し、捕獲した箱罠の回収、処分を委託したことで、ハクビシンにも対応できるようになり、町民の方々の負担軽減および獣害対策の強化に繋がっているものと考えています。アライグマの捕獲数は今年11

月末現在で130頭、ハクビシンは7頭で、既に前年度を大幅に上回っています。

箱罠の運用体制を見直す考えはあるのか伺います。

産業建設部長 今年度、国の交付金を活用し、20基を追加購入し、現在は40基保有していますが、さらに増設していくことも考えています。

害獣の生息域対策の取り組み状況と生息域を減少させることによる農業被害の防止と在来種保護を図る考えはあるのか伺います。

産業建設部長 平地林の敷払いなどの環境の整備が害獣の生息域を減少させ、農業被害の防止と在来種保護にも繋がるものと考えます。

町長 手入れされていない平地林の場合、平地林の持つ良い機能を発揮できないことに繋がるため、まず平地林の手入れ、管理を考えて各施策

トレーラーハウス型ホテルの整備について



はら
動画
こちら



おおくぼ としお 議員

トレーラーハウス型ホテルの目的や効果、事業概要について伺います。また、宿泊利用について詳細を伺います。

秘書室長 憩遊館のリノベーションにより、交流人口

に取り組むべきだと考えます。

様々なコミュニティが地域活動を通して、地域の平地林が活用、整備されていくことについて、町が支援する考えはあるのか伺います。

町長 町民の力で里山を守るためには、コミュニティの推進やボランティアの方々の活躍の場に対し、行政や町民の皆様の支援、そして民間の支援も交えた体制が必要であると考えます。

の拡大、消費行動の増加による地域経済の循環および活性化を図りたいと考えています。その効果をより大きくする宿泊について、当町は受け入れ体制が脆弱であり、需要に対応できていない状況です。

そこで本町への来訪者の滞在時間を増加させ、その消費行動により地域経済の活性化を図るという目的のため、宿泊者の受け入れ体制を整備し、来訪者に、宿泊可能な魅力あるまちとして全国に発信していきたいと考えています。

事業概要については、トレーラーハウス型ホテルをグリーンビレッジ敷地内に3台設置する計画です。さらに災害時には避難者の仮設住宅としての活用を計画しています。

宿泊利用につきましても、観光客の需要に因應するため、町外の方の利用を想定していますが、町民の方にも利用をさせていただければと考えています。

町内、町外の小中学生の料金体系はどう考えているのか。また、宿泊予約が複数になった場合について伺います。

町長 地元への貢献と観光客の需要に因應、さらに防災という3つの観点から考えていますので、小中学生の教育としての利用については今後検討すべきであると考えています。予約が複数になった場合は、社会通念上、先に申し込んだ方が優先されると考えます。

小中学生の利用希望者がいた場合、トレーラーハウス型ホテルを体験できるような環境づくり、機会を設けていただきたいと考えます。

教育長 現時点では、教育関係での利用は未定の段階ですが、小中学生が体験をし、将来八千代町に住み続ける、あるいは八千代町に戻ってくることを期待しながら進めていくことは、今後検討していくことであると考えています。

(令和7年12月4日現在)

八千代町議会 歴代議長・副議長

議 長				副 議 長			
代	氏 名	就任年月日	退任年月日	代	氏 名	就任年月日	退任年月日
初	猪瀬利一	S30.12.15	S34.12.10	初	久保谷一郎	S30.12.15	S34.12.10
2	猪瀬利一	S34.12.15	S38.12.10	2	野中威之介	S34.12.15	S38.12.10
3	松田一弘	S38.12.26	S42.12.10	3	大久保芳雄	S38.12.26	S42.12.10
4	松田一弘	S42.12.15	S44.7.10	4	久保谷本雄	S42.12.15	S44.10.20
5	久保谷本雄	S44.10.20	S46.12.10	5	岩田竜一	S44.10.20	S46.12.10
6	広瀬清市	S46.12.15	S50.12.10	6	野口祐一	S46.12.15	S50.12.10
7	大久保謹彦	S50.12.15	S54.12.10	7	野沢正一	S50.12.15	S54.12.10
8	湯本直	S54.12.15	S56.12.14	8	羽鳥豊栄	S54.12.15	S56.12.14
9	湯本直	S56.12.14	S58.12.10	9	中山平一	S56.12.14	S58.12.10
10	広瀬清市	S58.12.20	S62.12.10	10	古沢文一	S58.12.20	S62.12.10
11	小菅政雄	S62.12.12	H2.6.14	11	鈴木直助	S62.12.12	H2.6.14
12	野口正	H2.6.14	H3.12.10	12	猪瀬長太郎	H2.6.14	H3.12.10
13	藤木一雄	H3.12.12	H7.12.10	13	中川智夫	H3.12.12	H7.12.10
14	中川智夫	H7.12.12	H9.12.2	14	古嶋忠則	H7.12.12	H9.12.2
15	古嶋忠則	H10.1.14	H10.12.2	15	稲葉常美	H10.1.14	H10.12.2
16	為我井大九郎	H10.12.2	H11.12.10	16	沢木秀雄	H10.12.2	H11.12.10
17	小竹徳市	H11.12.14	H15.12.10	17	内田操	H11.12.14	H15.12.10
18	稲葉常美	H15.12.12	H18.6.20	18	猪瀬正一	H15.12.12	H18.6.20
19	宮本直志	H18.6.20	H19.12.10	19	矢中召二	H18.6.20	H19.12.10
20	小島由久	H19.12.13	H21.12.9	20	相沢政信	H19.12.13	H21.12.9
21	生井和巳	H21.12.9	H23.12.10	21	上野政男	H21.12.9	H23.12.10
22	水垣正弘	H23.12.15	H25.12.6	22	大久保武	H23.12.15	H25.12.6
23	水垣正弘	H25.12.6	H27.12.10	23	大久保武	H25.12.6	H27.12.10
24	大久保武	H27.12.14	H30.3.6	24	国府田利明	H27.12.14	H29.12.7
25	上野政男	H30.3.6	R1.12.10	25	大里岳史	H29.12.7	R1.12.10
26	中山勝三	R1.12.12	R4.3.8	26	廣瀬賢一	R1.12.12	R4.3.8
27	大里岳史	R4.3.8	R5.12.10	27	増田光利	R4.3.8	R5.12.10
28	上野政男	R5.12.13	R7.12.4	28	安田忠司	R5.12.13	R7.12.4
29	水垣正弘	R7.12.4	在職中	29	谷中理矩	R7.12.4	在職中

議員14人に聞きました



もしくは

「50年後の八千代町」に 残したいものは



八千代町議会だよりは、昭和50年に第1号が発行されてから50年、
おかげさまで第200号を迎えました。

記念号特集として、上記の質問に対する議員14人の回答を掲載します。

デジタル社会への激しい変化の中で、どこまでも広がる緑豊かな大地や温かい人との繋がりが、ますます貴重なものとなっています。都会の喧騒に疲れた人々の心のオアシスとなること、何よりも平和な社会が続くことを心から願っています。



あかつか ちなつ
赤塚 千夏 議員

白菜生産日本一の誇りと、平坦で暮らしやすい大地を次の世代へ。災害に強く、人と自然が調和し、希望ある未来へつながる八千代町。



あかおぎ たえこ
赤荻 妙子 議員

調和のとれた素晴らしい住環境の街になってほしい。自然災害の少ないこの町は、全国から一目置かれるようになり、人口の増減はさほどないが、子育てをするならと移住してくる家族が集う、人間愛に満ち溢れた町になれたらと思います。



えのもと てつろう
榎本 哲朗 議員

八千代村が誕生して70年、50年後は120歳。逆に120年前は天保の大飢饉で大変な時代でした。果たして50年度の2075年には八千代町や茨城県は存在しているでしょうか。日本語を話せない人が過半数にならない事を祈ってます。



よしだ やすお
吉田 安夫 議員

農業の町として最先端の技術を活用し省力化、精密化高品質の生産を実現する。気候や土壌、生産者の経験が臭いづく知恵と技術（全国の先端大学と連携し人材育成、高度な情報技術と基盤確立）持続可能な発展する日本一の農業の町を目指す。



やすだ ただし
安田 忠司 議員

50年後、八千代町は多様な主体が繋がる「挑戦のプラットフォーム」へ。一人ひとりの想いが行動に変わる土壌を育み、対話で輪を広げ、行政との垣根を越え、参画を原動力に、日本一の農と自ら未来を拓く逞しい故郷を次世代へ継承します。



やなか りく
谷中 理矩 議員

議会だより第200号記念特集



【質問】

「50年後の八千代町」をこんなまちにしたい

50年後の八千代町は、現時点では想像出来ない。しかし、目の前にある積算している問題を、一つ一つクリアし、信念必ず貫いて解決していけば、きっと50年後の子どもたちが明るく、住みよい八千代町になると確信しています。



おおさと たけし 議員
大里 岳史 議員

平穏で災害が少なく、農業が盛んな八千代町。人口比では勤労者が多数の実態は変わらず、人口減少による縮小は避けられない。農、勤労者が互いに融和し、新しい社会に合わせたうえで、今まで通りの文化的な普通の生活を残したい。



ますだ みつとし 議員
増田 光利 議員

八千代町は首都圏の食料生産地として米、野菜、果樹など多くの種類を提
供し評判であります。極端な少子化により農業後継者の存続にも支障が出ておりますが、気候風土に恵まれた日本有数の農業産地として発展を望みます。



なまい かずみ 議員
生井 和巳 議員

町域はほぼ平地で地盤も強く自然災害に強い。心として発展していくと思うが、気候変動の影響で、採れる農産物が変わっていると思う。生産量そのものに依存せず、付加価値を高めた農業への転換に期待したい。



うえの まさお 議員
上野 政男 議員

町民や企業、行政が一体となつて様々な課題解決に取り組むことで、長期的な視点で八千代町の魅力を高め、発信し、生活拠点、農工商の産業拠点、観光拠点が有機的に連携し、バランスのとれた活力あるまちづくりを目指してまいります。



みずがき まさひろ 議員
水垣 正弘 議員

人口減少の中、外国人に労働力を頼る以外ない時代です。現在の町の人口が一割位に減少するでしょう。そのうち50年後は7割位が外国人で、日本人は三割位の人口になるでしょう。誰もが安心安全な生活が出来るような町にしたいです。



おおくほ たけし 議員
大久保 武 議員

当町のあく土、野方の地質の違いで、町民性も一中学区と東中学区地域がバランスよく営んでいるが、農業においては外国人労働者を2千人近く頼らなければならぬ。今の現状を改革して、若者が進んで農業者として従事する町にしたい。



おおくほ としお 議員
大久保 敏夫 議員

AI時代に求められる人材になるにはクリエイティブな新しい事を生み出す感性とスキルを身につけなければならない。その為には社会に対し自分の個性をアピールし、他人とのコミュニケーション能力や人をまとめる力等が大切である。



みやもと ただし 議員
宮本 直志 議員

町議会のあゆみ

八千代町議会だよりは、議会の審議内容・結果などを町民の皆さまにお知らせするために、昭和50年5月に創刊され、今号で創刊200号を迎えました。これを記念して過去の議会だよりをご紹介します。

memories



創刊号 昭和50年5月15日



第50号 昭和62年8月10日



第100号 平成12年8月23日



第150号 平成25年8月23日